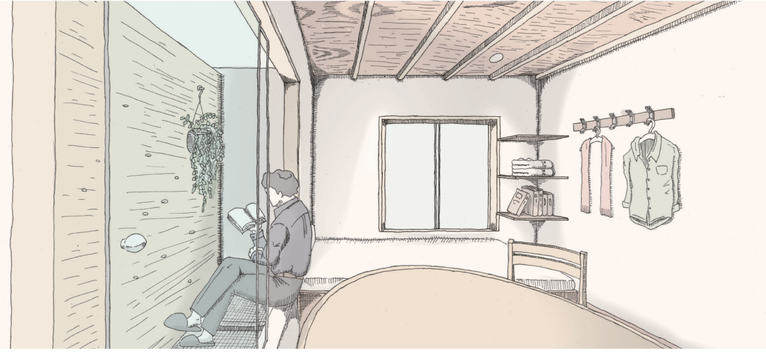
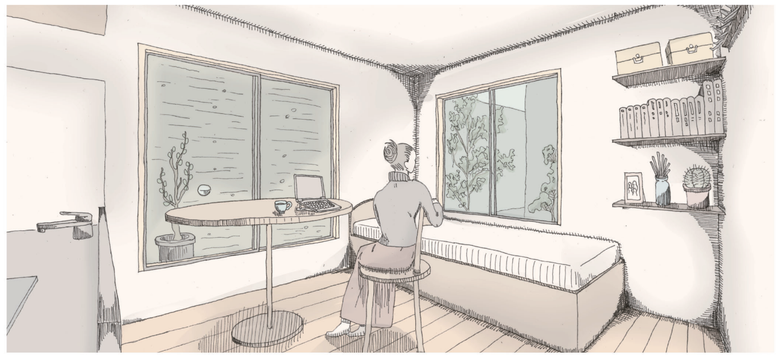
urban void

“間”

住宅の中で “間” を共有する。
隣人という「家族」や地域との、“都市的な距離感” を保ちつつ、
一緒に住むからこその “心地良さ” や “安心感” を得られるような「新たな住まい」を目指した。

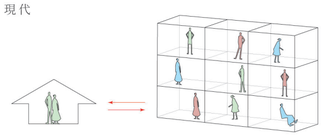




1. 「隣人」という「家族」

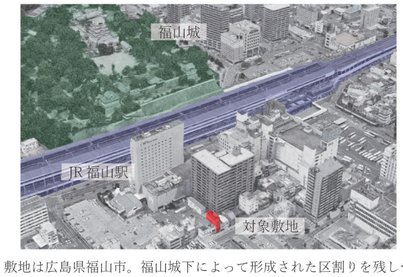
戦後

現代



人々の生活の場は、「都市」をはじめとして「個」が主体となった空間へシフトしてきている。この提案では、「家族」とは顔も知らない「隣人」である。

2. 城下町屋 × 駅前都市

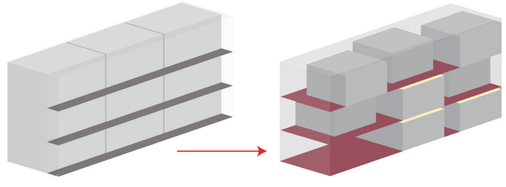


敷地は広島県福山市。福山城下によって形成された区割りを残しつつ、「駅」という新たなコンテクストが加わった都市である。町屋という伝統を踏襲しつつ、多様な個人が入り混じる住居空間を構成した。

3. “間” の共有　-「家族」との “都市的” つながり -

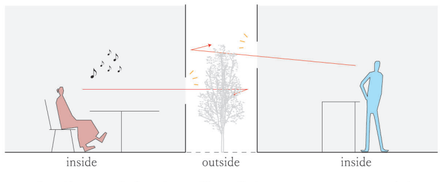
壁、床･天井を共有しない家

一般的モデル　　提案



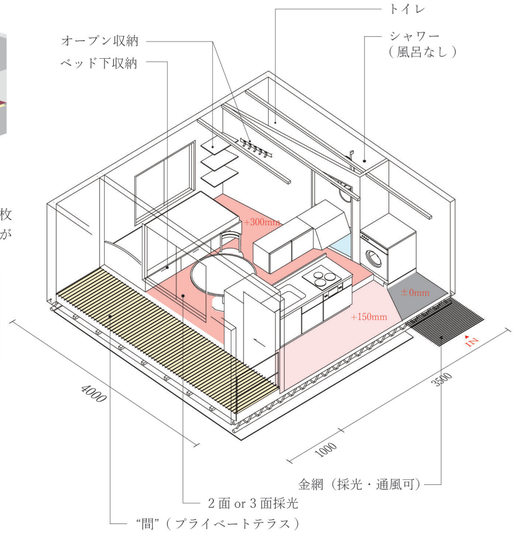
「個」が主体となった住宅環境は、経済優先の考えのもと、隣人と「壁」を 1 枚共有するだけのマンション・アパートが主流である。その結果、人とのトラブルが多発し、「共同で住む」ことによる「豊かさ」はまるで見出せていない。

共有されるもの		共有されないもの
自然環境（光・風・緑） 生活の雰囲気（明かり）	“間”	騒音・生活音 生活時間（交流はしない） 視線（顔は合わせない）



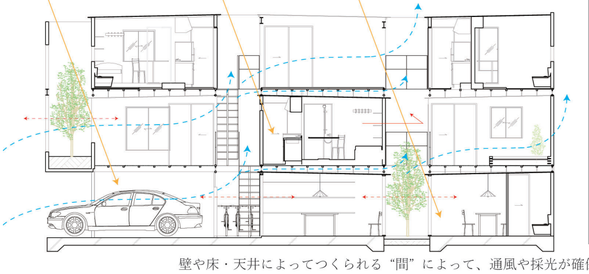
そこで本設計では、住宅の中で “間” を共有することによって、隣人という「家族」や地域との、“都市的な距離感” を保ちつつも、一緒に住むからこその “心地良さ” や “安心感” を得られるような「新たな住まい」を目指した。

4. 「最小限住宅」　(1 住戸プラン)

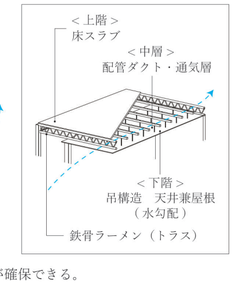


1 住戸 14m² の狭小空間に、生活に必要な機能がすべて詰め込まれている。しかし、適度にプライベートな外部空間 “間” によって部屋は広く認識でき、ゆとりある生活をのぞめる、“暮らしに寄り添った” 住戸になっている。

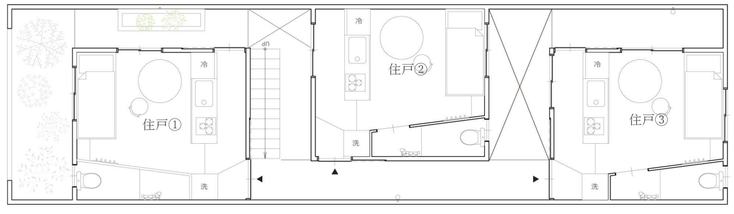
5. “間” をゆらめく光と風



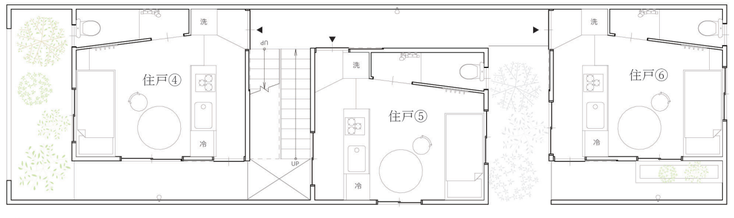
壁や床・天井によってつくられる “間” によって、通風や採光が確保できる。



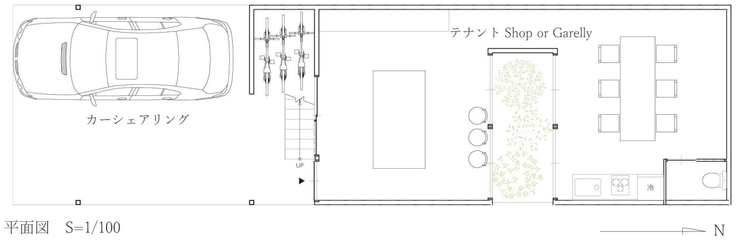
3FL



2FL



1FL



平面図　S=1/100　　N